

大草谷津田いきものの里 自然観察会

声で覚える冬の小鳥

和仁道大（千葉市）

日時：2011年1月16日（日）10：30－12：00 天候：晴

参加者：17名（大人14名 子供3名）

担当指導員：木下順次、和仁道大



千葉では珍しく朝から雪が降っており、開催が心配されたが、9時ごろには雪はやみ、太陽が見えてきた。大草の森の中では樹木に積もった雪がこまかく落ちるのが、ダイヤモンドダストのようにきれいに見えた。

森の中に入ると「ヒーヨ・ヒーヨ」とヒヨドリが鳴いていた。ヒヨドリは漢字では鶉と書くが、卑しい鳥とは気の毒にと物知りの参加者が言った。しかしスズメやメジロを蹴散らして餌台を独占したり、庭の千両の実を食べつくしたりするので、そう書かれても仕方ないかなとも思う。昔の人は鳥の習性も知っていてこの漢字を当てたのならすごいが、単に鳥の鳴き声からこの漢字当てたのかも知れない。

谷津田に出るとモズが木に止まっていた。モズ独特の尾を廻す仕草を望遠鏡でじっくりと観察することができた。いつもはキイキイ騒がしく鳴くモズだがこの日はさっぱり鳴いてくれない。参加者の1人がモズはとっても利口な鳥なんだよ、と次のような話をしてくれた。庭で薪割りをしているといつもモズがそばに寄ってきて、割れた薪の中からカミキリなどの幼虫が出てくるのを待っていて、食べるとのこと。

冬の田んぼではキセキレイが尾を上下に振り振り採餌に余念がなかった。そのためか「チチン」という声は聞こえなかったが、参加者は望遠鏡でこのきれいな鳥をジックリ見て満足してくれたようだ。キセキレイは他のセキレイ類と異なり、千葉県レッドデータではBにランクされている。大草ではよく見られるが、それだけ大草が自然の豊かな場所である証左であろう。

このほかにチッチッと鳴いていたアオジ、チリチリとかすかに聞こえたメジロ、ニイニイと鼻声で鳴くはずのヤマガラ、ジュクジュクと鳴くシジュウカラ、デデッポーと鳴くはずのキジバト、カーと鳴くハシブトガラスなどが確認されたが、鳴き声はよく聞こえなかった。

早出して下見したときは、コゲラ、エナガ、シロハラ、カシラダカ、カワラヒワ、シメなどが確認されたが、残念ながら本番では声も姿も見せてくれなかった。

そこで、木下さんは秘密兵器を取りだし、コゲラ、エナガ、ウグイスの笹鳴きなど本来なら聞こえるはずの鳴き声を聴いてもらった。

観察会のテーマからみるとあまり目標を達成できなかったが、参加者は林の中を吹き抜ける風の音を聞くのも一興だとか、カサカサと落葉を踏みしめて林のなかを歩くだけでも気持ちがいいと、私たちに慰めてくれた。